CTSD 評価・記録シート

1ページ目｜実施条件・結果・観察所見

評価日：　　年　　月　　日　　評価者：　　患者識別コード：

① 実施目的・評価条件

評価目的：

姿勢・場所・時間帯：

覚醒・注意（実施時の様子）：

② 実施に影響する要因（該当項目にチェック）

☐ 視覚　☐ 聴覚　☐ 言語・発話　☐ 上肢運動　☐ 疼痛・疲労　☐ せん妄疑い

具体的な状態・配慮（例：傾眠、補聴器使用、運動制限）：

③ CTSDの結果（公式評価用紙・マニュアルで採点）

合計点：　　／30点　☐ 全項目実施　☐ 一部未実施　☐ 評価不能

※ 合計点は公式採点規則に従い算出可能な場合のみ記入

項目別の特徴（正式な項目別得点は公式評価用紙に記録）：

未実施・評価不能の項目と理由（該当する場合）：

④ 日常生活場面との照合

声かけ・視線・表情・物品操作など、実際に観察した反応：

ケア・リハビリで活用できそうな手掛かり（仮説として記載）：

⑤ 共有・次回方針

共有先・共有内容：

次回評価時にそろえたい条件：

※ 0点と未入力・未実施・評価不能を混同しない。公式の採点規則を優先する。

CTSD 再評価・結果解釈シート

2ページ目｜経時比較・MDC・多職種共有

患者識別コード：　　記録日：　　年　　月　　日

① 初回と再評価の比較

初回評価日：　　合計点：　　／30点

再評価日：　　合計点：　　／30点

得点変化：　　点（再評価 − 初回）

② 条件差の確認

☐ 同程度の覚醒　☐ 同じ姿勢　☐ 同様の環境　☐ 同じ実施手順

初回と異なる条件・体調・評価不能項目：

③ 得点変化の解釈

研究報告：SEM 1.6点／MDC 3.6点（研究条件下の値）

☐ ＋4点以上　☐ −4点以下　☐ −3〜＋3点　☐ 比較困難

※ 両時点の合計点が有効に算出され、比較可能な場合のみ分類

MDCは測定誤差を超える変化の目安であり、治療効果や臨床的に重要な変化を
保証するものではありません。研究対象と異なる患者では適用に注意してください。

比較困難の理由・変化の解釈（条件差も記載）：

④ 生活場面の変化・多職種共有

生活場面で確認できた変化／変化なし：

看護・介護・リハビリ等に共有する事項：

次回の評価・観察方針：

資料の位置づけ

本資料はCTSDの公式評価用紙ではありません。検査課題・採点規則を収録していません。

公式評価用紙・マニュアル：https://othiroyuki.com/documents/

参考：Tanaka H, et al. Dement Geriatr Cogn Disord. 2015;40:94 – 106.
Tanaka H, et al. Dement Geriatr Cogn Disord Extra. 2018;8:214 – 225.